

## 川口町・魚沼山地点描 ～豊かな環境を作り出した人々と地球の営み～

＜小松原 琢＞



写真1 空からみた越後平野と魚沼山地(宮地良典氏より提供いただきました)。

### 魚沼山地の地形と地質

川口町を含む信濃川右岸の山地(魚沼山地)は、海成の第四紀堆積物が日本で最も標高の高い場所に分布する地域です。このことは魚沼山地が第四紀に大きく隆起したことを物語っています。中越地震も、このような魚沼山地を隆起させる地球の営みの一つでした。地震や火山のような生きている地球の営みは、時として大災害をもたらします。しかし、その反面地球の営みが豊かな自然環境を生み出すこともまた、事実なのです。



### 川口町の地すべり地形

魚沼山地を特徴づける地形として、地すべり地形があげられます。地すべり地形は土砂災害を起こしやすい一方で、地味肥沃で緩傾斜な農耕適地を作り出します。味が良く耐寒性に優れているものの、丈が高く倒れやすいコシヒカリは、最初風の弱い山間の地すべり地帯で作付けされ、その後平野部でも作付けされるようになっていきました。地すべり地帯は、コシヒカリ「育ての親」の一員ともいえるのです。地すべり地形は、今では銘柄米の産地としてだけでなく、鯉の養殖池としても利用され、人々の生活と生産を潤しています。

写真2 川口町の地すべり地形と棚田、遠方は越後三山(川口町より提供いただきました)。



写真3 信濃川沿いに露出する川口層(徳橋秀一氏より提供いただきました).

### 川口層

川口層は川口町内の信濃川沿いの露頭を模式地とする鮮新世前期の砂岩泥岩互層を主とする堆積岩です。本層など魚沼山地に分布する地層は、いずれも固結度が低く崩れやすいという特徴を持っています。しかし、「弱さ」は「掘削しやすい」という利点に直結します。江戸時代から、西川口地区など多くの地区で尾根の上の台地に広い水田が拓かれてきました。それを可能としたのは、弱い地層をくりぬいて台地上に水を供給する水路を先人たちが作ってきたためです。弱い地層をうまく利用して生活と生産の場を作り出す営みは、いろいろと形を変えながら今も人々の暮らしを支えています。



写真4 蒼丘の杜公園からみた東川口と魚野川(小松原琢撮影).

### 東川口の町

川口町の中心市街をなす東川口は、信濃川と魚野川の合流点近くにあります。ここは近世以降、三国街道の主要な宿場であるとともに水運の要衝として栄えてきました。川口の文化と繁栄は、町内各地の神社・寺院の献額に記された俳句からもうかがうことができます。

～風に舞う

木の葉に連れて 渡り鳥～

(文政四年 相川 米二)

### 参考文献

川口町史編さん委員会(1986):  
川口町史, 1198p.